

## 令和4年度 第3回滑川市DX懇話会 議事概要

日時：令和5年3月1日（水）19：00～20：15

場所：滑川市役所本館3階大会議室

### 【委員】

役 職	氏 名	備 考
滑川市自治会連合会 会長	澤 田 隆 之	
滑川市社会福祉協議会 常務理事	斎 木 秀 則	
富山医療福祉専門学校 専任教員	橋 本 武 憲	
滑川商工会議所 専務理事	杉 田 隆 之	
滑川市観光協会 会長	早 川 祐 一	
株式会社笑農和 代表取締役	下 村 豪 徳	欠席
滑川市教育センター 所長	松 田 弘 人	
株式会社TAM 専務取締役	稲 場 康 晴	
富山大学名誉教授	山 西 潤 一	
市民公募委員	荒 井 誉利香	
市民公募委員	岡 部 誠	

滑川市最高デジタル責任者（CDO）	柿 沢 昌 宏	会長（副市長）
滑川市最高デジタル責任者（CDO）補佐官	岩 本 健 嗣	富山県立大学工学部 情報システム工学科 准教授 (オンライン)

### 【事務局】

教育長	上 田 良 美	
総務部長	石 川 久 勝	
産業民生部長	黒 川 茂 樹	
建設部長	岩 城 義 隆	
教育委員会事務局長	上 田 博 之	
企画政策課長	小 川 勇 二	デジタル化推進班長
総務課長	櫻 井 雄 一	
財政課長	長 崎 一 敬	
デジタル化推進班員	9名	

## 【次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 説明  
滑川市DX推進計画案について  
令和5年度におけるDX施策等の取組内容について
- 4 意見交換
- 5 閉会

## 発言要旨

会長あいさつ

資料説明（資料1～3）

説明事項等に対する意見交換

委員：

市民のDXについて、商工会議所として要望していた、中小企業や個人事業主などを対象としたDX支援を盛り込んでいただきありがたい。今後、市と協力しながら、具体的な施策を模索したいと思っているので、よろしく願いしたい。

それから、窓口業務改革等の取組では、本日からコンビニ交付が開始されるということだが、他の市や町に比べると数年遅れをとっている。魚津市では、LINEですべて完結できる体制になっているということなので、今後は、追いつけ・追い越せで頑張っていたきたい。

また、要望になるが、デジタルを活用した情報発信ということで、これも本日からLINEに加えて、Twitterを始めたということで非常に頼もしいが、市議会中継はもちろんケーブルテレビでやっているが、周りの市を見ると、富山市でも黒部市でもLIVE配信をしている。YouTubeであれば費用はかからないと思うので、ぜひ、即時に配信できる体制をとっていただきたい。もっと言えば、市長の記者会見を復活されたということで、非常にすばらしい取組だと思っているが、これもぜひ、LIVE配信していただければ、皆さんに伝わりやすいと思っている。

デジタルインフラについても、商工会議所から要望しており、先般の市の回答では、「公共施設での整備を進めてきており、今後も必要に応じて、整備していく。」ということであったが、ここしばらくは、Wi-Fi環境は必要だと思うので、整備をしていただきたい。

5Gについては、市内でも少しずつ整備が進んでいるが、一刻も早い整備を市から通信事業者に要望してもらいたい。

会長：

おっしゃる通りだと思うので、少しずつできるところから進めていきたい。

委員：

質問になるが、GIGA スクール運営支援センターの整備は、どこまで話が進んでいるのか教えて欲しい。

事務局：

現在、GIGA スクールの推進のため、県・市町村で構成する推進協議会を設置しようとしているところ。GIGA スクール環境のサポート状況は各市町村では異なるため、今後、導入時期や内容を調整しながら運営支援センターの整備を検討する。

委員：

滑川市には ICT 支援員も 2 人いるが、学校の先生にとっては、GIGA スクールの運営は負担になっていると思う。計画の中で、学校 ICT 環境の整備という記載もあったが、ハード面の整備だけでなく、それを運用する人への手当というのが非常に重要だと思う。

また、プログラミング教育の支援では、具体的に何をするのか。

事務局：

現在も地域の任意団体等でプログラミング教室が運営されており、市は費用面での運営支援を行っているが、今後も何らかの財政支援を継続したいと考えている。

委員：

町内会の DX では、具体的にいつごろから何をするのか。

事務局：

町内会の運営を支援する「結ネット」というアプリの導入を、来年度から市内全域に拡大したいと考えている。今のところ、4月12日に開催する町内会長研修会の中で、市から概要を説明し、「ぜひやりたい」という町内会に対し、市で初年度の初期費用と運用費用を負担することとしている。

委員：

児童生徒への支援という話もあったが、教職員への支援という意味で、校務支援システムのクラウド活用ということは考えているか。

事務局：

クラウド活用というところまでは進んでいない。市教育センターの協力もあり、先生のスキルは随分上がっている。先ほどの質問にもあった ICT 支援員は、今年度に 2 名になり、本当にスキルの高い人材なので（教職員への支援という面で）大変助かっている。

委員：

市として統一した校務支援システムは入っているのか。

事務局：

統一したものは入っているが、今は滑川市独自のシステムで運用している。今後は、県内で統一したシステムの導入も検討している。

委員：

全国的に見ると、未だに USB の利用という話も聞くが、とんでもないことだと思っている。クラウド活用し、いつでもどこでもデータを共有できる体制になれば良いと思う。

岩本 CDO 補佐官：

今のご意見の補足になるか分からないが、校務支援システムは、ご指摘のとおり絶対にあつた方が良く、各市町村がバラバラに独自のものを導入している状況から、県でいわゆる共同調達をして、統一的なものにしようという動きがあるということは承知している。

ただ、各市町村の更新時期にばらつきがあり、今後、足並みをそろえて共同調達をしようという段階なので、その話が固まってくれば、共同調達でクラウドをベースにしたものになるのはほぼ間違いないと思う。まだ少し時間がかかるかもしれないが、今後は、先ほどご意見をいただいた形になっていくと思う。

委員：

マイナンバーカードの話があつたが、滑川市でマイナンバーカードを保険証として使える医療機関はどれだけあるのか。

事務局：

今現在、医療機関で使えるところは3施設にとどまっている。

委員：

マイナンバーカードの交付率も出ていたが、（カードを保有することで）どういうメリットがあるのかが、いまひとつ実感できない。そういうメリットを、今後増やしてもらいたい。

委員：

中小企業や個人事業主の DX 推進について、根本的なことだが、ここには福祉の事業所も含まれているという理解でよいか。

事務局：

その認識で間違いない。

委員：

いろんなデジタル化を進める上で、ハードやソフトで費用がかかるため、まだ決まっていないかもしれないが、想定されている補助などがあれば教えていただきたい。

事務局：

支援の内容はこれから検討していくところ。国として制度を設けているもの、県として設けているものもあるので、そこと調整しながら、市でどういった取り組みが必要かということを検討し、その上で、市独自の助成が必要ということであれば、費用面の支援の検討も必要だと思っている。

委員：

デジタルの分野の取り組みが弱いため、頑張っていきたいという気持ちはあるが、どうしても費用がかかるため、様々な情報提供をお願いしたい。

委員：

町内会の DX に関連して、今、試験的に各町内の公民館に出向いてスマホ教室を開催するというので、1月から実施に協力しているが、様々な質問が出てカオスな状態になっている。それは悪いことではないが、「結ネット」を効果的に導入しようとしたら町内会長だけが理解していても駄目で、せめて班長レベルの人まで使えるようにならないとうまく運用できないと思う。

どんな小さな町内会でも班に分かれており、町内会運営の推進役という点において執行部や班長などを巻き込まないといけないので、そういう方が使いこなせるように、支援員みたいな人を派遣すれば、活用が進むのではないか。どうやって、町内会を支援していくか具体的な検討が必要だと思う。

もう1点、「結ネット」の初年度費用は市で負担するということだが、そうすると2年目以降は町内会で負担しなければならない。例えば、結ネットの活用レベルに応じて、年度ごとにマイルストーンを決め、「こういうことができるようになれば、これだけの費用を支援する。」といったことをしていくと、活用レベルも上がっていくのではないか。それとプラスして、地区公民館には既に Wi-Fi が整備されているが、町内会レベルの公民館に関しても、「結ネット」の推進役の集まりなどで活用するために、Wi-Fi 環境があった方が良いという話になるのではないか。

また、議会中継に関して先ほど意見が出たが、簡単に YouTube で流すことができ、そこまで費用をかけず、機器もそろえることはできるので、要望があれば支援する。

GIGA スクール運営支援センターは、県立学校に関しては既に運用されていると思うが、それはあくまで県立の高校や特別支援学校だけで、市町村が共同で整備するというのは、また全然別のものができるということか。

事務局：

各市町村において、（運営支援センターについての）希望がバラバラな点もあるため、県で統一するのか、それともいくつかの市町村が共同で整備するのかということは今後協議していく。今、滑川市では、トラブルがあった時には業者にサポートしてもらっているが、将来的には児童生徒からの質問などにも対応できる体制になっていけば良いと思っている。

委員：

私も国のこの事業に関わっているが、国の枠組みとしては、県が中心になって全ての市町村が連携して運営サポートセンターをやることで補助率が1/2になる。そういう意味で、県立学校だけが対象なのではなく全ての市町村の学校のサポートをしていくことになる。

委員：

先生への支援も非常に大切だが、利用者目線で考えると、児童生徒やその保護者でもお困りの方が多いと思うので、そういったサポートの充実も今後図っていただきたい。

会長：

今ほどのGIGAスクールはご指摘のとおりであるし、その前のご提案もまさにそのとおりだと思うので、ご指摘を踏まえて、取組みを考えながら進めて参りたい。

委員：

前回の懇話会で、なかなか市の担当の方と話す機会がないという話をしたが、ラウンドテーブルを作っていた点はとてもよいと思う。前回の会議で、滑川市のLINEについて話が出たが、すぐ登録したところ、様々な情報が届き断水時の情報収集でも役に立った。周囲にも勧めていきたいと思っている。

資料3のまちづくりのDXで「健康ポイントのデジタル管理」というのがあるが、イメージがつかないので少し教えていただきたい。

事務局：

健康ポイントということで、健康づくりの取組みをした場合にポイントを付与し、一定のポイントが貯まると記念品に応募できるという事業を実施している。今現在は、ポイントの記録を紙ベースでやっており、記念品への応募をハガキでだしてもらっている。

しかしながら、健康増進への取組みをさらに推進したいということで、LINE公式アカウントの中でポイントの管理や記念品への応募ができる仕組みを来年度、LINEの機能拡充の中で整備することで、より健康増進の取組みを幅広く普及していきたいと思っている。

委員：

また、市役所の DX で道路等損傷報告を LINE でできるようになるということも非常に良いと思う。最近、2歳の娘と5歳の娘を連れて散歩することがあるが、用水路に柵がなかったりして、危険に感じる箇所もある。そういった部分を市民が気づいて、町内会を通してではなく、直接市民の声を届けられるということがデジタル化の良いところだと思う。

委員：

先日の断水の際は、各町内会長に電話での連絡や広報車での案内をしていた。もちろん、アナログ的な連絡も重要だとは思いますが、こういったことこそ DX を推進することで、より多くの市民に周知が図られると感じた。

また、観光協会という立場にあるが、コロナがおさまりつつある中で、滑川市への誘客ということを考えていくと、どのような形でこの町に来る観光客に様々な情報提供をしていくべきか改めて考える必要があると思った。例えば、来月から始まる海上観光においても、直前まで観光船が出るかどうか分からない。こういった運休等の情報提供も、急いで充実に努めていくべきだと改めて感じた。

会長：

やはり安全安心の分野が一番大事だと思うし、観光分野での DX も必要かと思う。

委員：

質問になるが、今後の計画の策定時は、今いただいている資料1に、資料3の内容を付け加えたようなものとなるという認識で良いか。

会長：

計画については、資料1を基本としており、修正が必要な点などがあれば資料1の方に追加していくことになる。資料3の内容は、令和5年度の予算措置の状況等を示したものであり、資料1と重複している点もあるが、わかりやすく具体的に記載したものとなっている。

委員：

計画の中には、滑川市独自でやる部分と、国や県と共同でやる部分、ある意味右倣えではないがそういう部分もあると思う。計画の中に、独自でやる部分とそうでない部分を明記すれば分かりやすいと思った。

また、GIGAスクールについては、県の教育委員会でも様々な資料をHPに掲載している。そういったリンクを掲載することで、滑川市と県との繋がりが分かりやすくなるし、この計画に全て書かなくても、様々な情報を入手できるようにすれば、さらに分かりやすくなると思った。

最後に、事務局から事前に資料を配布していただいている中で、分からないことなどを事前に問い合わせることができれば、余計な手間が増えるかもしれないが、会議において、もっといろいろな意見が出てくるのではないかと思った。

事務局：

ご指摘の通りだと思う。計画自体についても、以前、オープンデータの掲載ページを分かるようにという意見もいただいたが、できる限り分かりやすいものになるようにしていきたい。また、会議の運営方法についても、より意見が出やすいように今後検討していきたいと思う。

委員：

先ほども意見が出たが、LINE の情報発信が充実しているので、周知を進めていただきたい。広報誌はあまり目にしないと思うので、周知する手段を考えているのか伺いたい。

事務局：

確かに市の広報誌は、なかなか読まれてないという現実があると思う。より行政情報にアクセスしやすいように、市のLINE 公式アカウントで、プッシュ型の情報発信をしているが、そちらも来年度のLINE の機能拡充の中で、本当に自分が受信したい情報を選択して受信できるような機能を追加する予定。こういった形が情報を得やすいかは、市民の方それぞれだと思うので、幅広い選択肢を持ちながら、伝わるような情報発信を心がけていきたい。

LINE 自体の周知は広報誌に載せているほかは、ケーブルテレビやスマホ教室でも案内している。確かに、まず周知を強化するということが一番大事だと思うので、効果的な方法を今後考えていきたい。

委員：

交通安全の横断幕のような形で周知してはどうか。また、駅の中にあるようなデジタルサイネージなどを使えば、コンテンツも更新しやすく良いと思う。病院の待合室なども、待ち時間が長くて暇なので、そういったところで周知を図れば効果的ではないか。

委員：

「結ネット」の導入について、4月の町内会長研修会で説明いただくということだが、断水のことがあるって、導入の必要性も増している。ぜひ、全ての町内会に対して、必要性が伝わるように分かりやすく説明してもらいたい。

事務局：

本当に、全ての町内に導入していただきたいと思っているため、4月12日の研修会



では、いろんな都合もあるかと思うが、極力、全ての町内会に残っていただき、詳しい説明をしたいと思っている。町内会長研修会に出られない町内については、別の機会を設けるだとか、個別に詳しい説明をするといったことも考えている。

今年度も導入されたのは2町内だけだが、興味をいただいた町内会には個別に訪問してアプリの説明などをしてきたので、引き続き来年度もそういった取り組みをしていくこととしている。

委員：

教育関係では、先ほど教育長からもあったが、先生方へのサポートということで、先日の推進協議会でもご意見いただき、来年度の研修を充実させていきたいと考えている。

先ほども話のあった ICT 支援員の2名だが、大変堪能な方で各学校に日替わりで訪問しているが、本日も来年度から実施される全国学力学習状況調査における英語のスピーキングテストの実証実験をしたが、サポートしていただいたおかげで、大きなトラブルもなく終えることができた。

やはり、この支援員の重要性というのは高まっているので、来年度も学校の先生や生徒のサポートに入ってもらおうと考えている。

会長：

一通り皆様からご意見をいただいたが、岩本先生から全体を通じて、ご意見をいただきたい。

岩本 CDO 補佐官：

中小企業の支援を盛り込んだことについて評価していただいたが、私もすごく良かったと思っている。実際にどういう支援をしていくかということだが、計画は5カ年計画なので、資料3の令和5年度で実施する内容には、計画に記載があっても入っていない項目もたくさんある。そういう中で、先ほども紹介があったとおり、来年度から中小企業の伴走支援を得意としている民間企業の方が市に入るので、その方を中心にどんな支援が必要かということ、我々も一緒に考えながら、少し遅いと感じるかもしれないが、再来年度の予算・政策に反映されていくような流れになると思う。中小企業の DX を支えるというところでは、今後協力にバックアップできるのではないかと考えている。

また、GIGA スクール運営支援センターについて様々な意見が出ていて非常に大事なところだと思っている。来年度、協議会で市町村と議論しながら、どうするかを決め、再来年度そういったものを整備するといった、少しのんびりしたスケジュールなのかもしれないなと思っており、今後の動きを注視しながら県にも意見していきたいと思っている。

「結ネット」の話もいろいろ出ていたが、取組みの段階に合わせた費用負担というのはとても良いと思った。また、先日も事務局とも話をしていたが、市や連合会長、各

町内会長の間だけでも、「結ネット」でコミュニケーションがとれるようになれば、情報伝達がしやすくなるし、町内会長自身に使い勝手を知ってもらうことで、自らの町内会に広げていくという流れになれば良いので、そういったことも含めて検討できれば良いと思った。

また、資料について、国がやる部分と県がやる部分、市が独自でやる部分が分かりづらいのと、リンク情報を取得できるようにという意見はおっしゃる通りで、行政では「これは国の補助金でやる。これは、県がやる。」と当たり前のように思っていることが、市民の皆さんからは分かりづらい部分かもしれないので、何か明記も必要なのかなという気づきをいただいた。

あと、そもそもLINE アカウントのそのものの周知をしっかりとやらないといけないということで、サイネージの利用も含めてだが、公共施設にLINE の登録を呼びかける掲示をすとか、そんなにコストをかけずにできることもたくさんあると思う。そこは、すごく良いアイデアをいただいたと思っている。

計画の策定期限も迫っているため、全てを直せるわけではないと思うが、来年度以降の施策の検討に反映をしていくことはできるので、自分も市に協力しながら進めていきたいと思っている。

会長：

岩本先生には、非常に適切な助言をいただき、ありがとうございます。

本日いただいたご意見を踏まえ、計画で修正すべき点があれば修正した上で、今月中に計画を策定する。この計画は、令和5年から9年までの5カ年計画だが、計画本文の中にも記載があるとおり、随時修正することとしている。来年度のDX懇話会においてもご意見いただき、必要な修正を加えながら、できるところから前に進めていきたいと思っているため、委員の皆様には引き続きご支援いただければありがたい。

本日は、ありがとうございました。